

塾長の独り言 NO22 H16.6.3.

「吉田松陰先生シリーズ」その1

「松陰先生と生まれた環境」

先月、松陰先生の原点、萩に行ってお来ました。

昨年よりいろいろ勉強し、萩に行ってお、見たことにより学びになりました。  
つれづれながら、感想を述べます。

萩では、吉田松陰のことは「松陰先生」と呼ぶんですね！  
高杉晋作のことは、「高杉晋作君」なんです。何故か？親しみがあるんだな！

さて、松陰先生の生まれた場所は、萩郊外の丘の高台。  
萩城下が一望に望め、その先にお城があり、その先には日本海（つまりは外国）

林先生から教えていただいたのは、松陰先生が各地を訪問した際には、  
一番先に、城下が一望に見える高台に登り、それから城下に入ってしまったと。

このことの本質は、「大局観察」  
まずは大局から観察することからはじめ、それから部分を見る「小局着手」習慣ができていた。  
これも生まれてからの環境がそうさせたのかな？と感じました。

人間とは 環境に左右される動物である。  
我々は知らず知らずに環境に左右されているんですね。  
かの「孟子の母」も子供の教育の為に、何度も引越しをしたと言われております。

振り返って、自分は、自社は、どうですか？  
環境を創るように工夫しているのか？反省させられました。

自ら、「良い環境を創ろう」とする努力をしているのか？  
自分自身で作らなければ、誰が作ってくれるのか？  
自社では、誰が作る努力をするのか？  
…それは、自分でやるしかない！ 会社では社長の役目なんですね。

環境は自ら、創るもの。  
誰かが創ってくれるものではないんだな！

知識では、感じない！ものですね。  
まさに「百聞は一見にしかず！」  
百の知識よりも、一の経験の方が重要なんだな！  
情報の共有よりも重要なのは、「体験の共鳴」を大切にしましょう。  
…少し、難しいかな？…PF ドラッカーも言っていました。